

令和6年度第1回青森市廃棄物減量等推進審議会

会議概要

1 日時

令和6年11月21日（木） 13時30分～14時50分

2 場所

青森市福祉増進センター 2階 研修室

3 出席者

【委員】

佐々木委員（会長）、西田委員（副会長）、石塚委員、伊藤委員、三津谷委員
（青山委員、一戸委員、竹中委員が欠席し、8名中5名出席）

【事務局】

環境部 佐々木部長、柴田次長

環境政策課 菊池課長、廃棄物対策課 上野課長、

清掃管理課 堰野端課長、松原主幹、日渡主幹、吉田主査、佐藤主事

青森市清掃工場 小関場長

浪岡振興部市民課 山口課長

4 会議の公開、非公開の別

「青森市附属機関の設置及び運営に関する指針」に基づき、会議は原則として公開することとしており、当審議会においても公開とした。

5 会議内容

(1) 令和6年度第1回審議会

①開会

②審議「ごみ減量化・資源化への取組について」

配付資料「資料1：可燃ごみ排出量の状況」、「資料2：令和6年度 ごみ減量化・資源化への取組の実施状況と今後の予定」、「資料3：次年度以降の『ごみ減量化・資源化への取組方策』について」を事務局から説明を行い、委員から意見・質問等をいただいた。

③その他

④閉会

6 会議要旨

(委員)

- 「資料1：可燃ごみ排出量の状況」と「資料3：次年度以降の『ごみ減量化・資源化への取組方策』について」で掲げている目標値は違うのか。青森市総合計画前期基本計画の目標値の設定の根拠を教えてください。
- 「資料1：可燃ごみ排出量の状況」での説明で、なぜ、青森市清掃工場の破碎選別処理施設が再稼働することでリサイクル率が上がるのか。
- 令和8年度から浪岡地区のごみを青森市清掃工場で処理することに伴う、ごみ出しルールの変更等の浪岡地区住民への周知について、「資料2：令和6年度 ごみ減量化・資源化への取組の実施状況と今後の予定」にある、ごみ出しルール向上推進減量化事業の講習会を活用し、来年度開催することはできないか。ごみ出しルールの周知については、町会の代表者だけでなく、住民を対象とした説明会を開催し、「ごみ出しルールはこう変わる。ごみ袋はこう変わる。」などを見て分かるような説明をしないと、ひいては、青森市総合計画前期基本計画に掲げる目標値を達成できなくなるのではないかと懸念している。

(事務局)

- 「資料1：可燃ごみ排出量の状況」では、令和8年度の浪岡地区のごみ処理を見据えた可燃ごみの減量目標8万3,663トン为目标値として設定したものであり、「資料3：次年度以降の『ごみ減量化・資源化への取組方策』について」では、次なる目標として、可燃ごみのほか、不燃ごみ・資源ごみ・粗大ごみ等を含めた「ごみの総排出量」を指標に定め、市民1人1日当たりのごみ排出量・リサイクル率については、人口規模や環境の似ている東北県庁所在市の平均値に着実に追いつくことを目標に設定したものである。
- 青森市清掃工場の破碎選別処理施設の火災に伴い、現在、不燃ごみに含まれる鉄・アルミを青森市最終処分場へ埋立処分しているが、破碎選別処理施設の再稼働により資源化することが可能となるため、リサイクル率が向上するものと見込んでいる。
- 令和8年度から浪岡地区のごみを青森市清掃工場で処理することに伴う、ごみ出しルールの変更などの浪岡地区住民への周知については、ごみ出しルール向上推進減量化事業の講習会とは別途、全町会に職員が出向き、説明会を開催することを考えている。

(委員)

「資料1：可燃ごみ排出量の状況」での可燃ごみ量の減少について、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために自粛・制限の影響を受けていた事業活動が徐々に再開された状況にある中で、ごみ減量化目標を達成できるところまでに至ったのは、これまでの取組が功を奏したものと思っている。

西市長が「DX（デジタルトランスフォーメーション）」というテーマを発信して「書か

ない窓口、最終形として行かない窓口」などに取り組みされており、紙の減少が3Rのリデュースにつながる良い取組になるものと考えている。

また、株式会社セブン-イレブン・ジャパンと包括連携協定を締結し、ペットボトル回収機を設置する事業を西市長が宣伝し取り組まれていることがリサイクルの機運を高めることにつながっている。この取組が、資源ごみ等の回収拠点情報をお知らせする「資源ごみステーションマップ」がさらに充実した内容となって良かったと感じている。

(委員)

- 「資料2：令和6年度 ごみ減量化・資源化への取組の実施状況と今後の予定」にある、清掃活動「市民一掃きデー」が、毎年同じ場所で行われていることが気になっている。大勢で清掃活動を行っても、毎年開催している場所のごみが無い。(あっても先頭の集団がごみを拾うと、後ろの集団は拾うごみが無い状態である。) 自身が行っている清掃活動では、すぐごみ袋がいっぱいになるような場所がほかにもあるので、街をきれいにする意味でも、活動単位が少人数にならざるを得なかったとしても、清掃活動が必要な場所を調査して実施した方が良いのではないかと。
- 青森ねぶた祭に関して、食品のパックやお酒の缶、焼き鳥の串のようなポイ捨てごみが散乱している。ごみ回収場所を設置するとか、ごみになるような物を売らせない取組が必要なのではないか。京都の祇園祭を事例に挙げると、資源物回収のエコステーションの設置や、夜店や屋台の協力の下、使い捨て食器をリユース食器に切り替える活動の展開、ボランティアスタッフによるごみ分別収集などを行いごみ問題に取り組んでいる。ごみの散で観光客に青森のイメージが下がらないよう、環境部だけでなく他部とも連携してごみ対策を講じてはどうか。
- ペーパーレス化に向けて、廃棄物減量等推進審議会の会議資料は、委員によっては紙媒体の方が良い方もいるかと思うが、メール等で送信いただければパソコン持参で対応する方法もあるので、全庁的に会議資料の減量化に取り組んでほしい。
- 市民センター、市役所庁舎などに回収ボックスを設置する拠点回収について、テトラパックの回収は無く、スーパーでも回収できないということなので、自身でテトラパック商品を扱うことをやめた。リサイクル率向上のため、回収できるように検討してはいただけないか。

(事務局)

- 清掃活動「市民一掃きデー」の実施方法について、町会等に意見を聞き開催場所・開催回数を検討する。
- ペーパーレス化に向けて、会議資料を無駄に増やさぬよう取り組む。
- テトラパックの拠点回収については、情報収集し対応を検討する。

(委員)

- 「資料3：次年度以降の『ごみ減量化・資源化への取組方策』について」の、市民1人1日当たりのごみ排出量について、家庭系・事業系別の目標値を教えてください。
- 「資料1：可燃ごみ排出量の状況」の減量実績について、ごみ減量化につながったと考えられる理由があれば教えてください。
- 「資料2：令和6年度 ごみ減量化・資源化への取組の実施状況と今後の予定」の、集団回収に取り組む団体数が減っており、考えられる理由があれば教えてください。また、他市町村では集団回収の買取価格の相場が影響しているようであるが、青森市でも影響があるのか。
- 要望として、製品プラスチックの分別回収をお願いしたい。八戸市では製品プラスチック分別回収の実証事業を行っている。

(事務局)

- 青森市総合計画前期基本計画に掲げる市民1人1日当たりのごみ排出量については、人口規模や環境の似ている東北県庁所在市の平均値に着実に追いつくことを目標に設定したものであるが、東北県庁所在地では家庭系・事業系別での目標値の設定がないという状況である。本市の目標値の内訳として算出することは可能である。
- 「資料1：可燃ごみ排出量の状況」の減量実績について、家庭系・事業系ごみのいずれも減少し、家庭系ごみについては人口減少が大きな要因であると考えている。事業系ごみの減少の要因は把握していない。
- 集団回収の団体数減少については、コロナ禍の影響で活動が自粛されたものが再開されていないことが要因と考えている。集団回収の買取価格の相場の影響については、本市として情報は入っていない。